



復刊第122号
題字 吉岡弥生

生活はつらつ 生涯しあわせ

副会長 佐藤千代子

平成二年三月二日、第百十八回特別国会で海部総理大臣の施政方針演説が行なわれました。その中で国民すべてが豊かな生活を!! との箇所が目にとまりました。「人生のあらゆる段階で生活の在り方を自由に選んで健康で豊かな高齢期を迎えることができ、また育児、介護を中心とする負担が女性にかかり過ぎていく現状が改善されるなど、国民一人一人が豊かさを実感できる環境をつくり上げたい。そのため、生活はつらつ、生涯しあわせ」を基本理念とする新人生設計計画の構想を推進する」とあります。また人口高齢化の問題に対する諸種施策とともに、出生数の増加をはかることも大切であり、そのために若い人々の子どもを持つ意欲を積極的に支えていくよう努力する、とも述べられています。

高齢化社会、とりわけ高齢者の在

宅介護における主婦の過重負担に焦点をあてられたこと、また社会活性化の新しい局面として出生数の増加をはかり、そのための対応を講ずるとする施策はぜひ推進されたいと思います。

なお、昨今の厚生行政の中で、主婦の突如の入院などに際し、緊急育児施設の設置が考えられていると聞きます。これは私も開業医が長年苦慮してきた問題であり、早期実現が待たれるところです。

母の心で癒す

国際女医学会のバッジに描かれている「MATRIS ANIMO CURANT」とは医業に捧げた女医の使命を簡潔に説明したもので、「母の心で癒す」の意味です。この心こそ、今、医療の中で問い直されている医の原点に通じるものであると思

「医学と人間」という本の中で話されている言葉ですが「原点である人間の幸せを目的にしていたのが医療という技術です。それが分子生物学あるいは工学の影響を受けて科学としての構築になってきました。そうすると次第に人間から離れ始め、医療という原点を忘れてしまふ——中略——医者という人間としての重さがかえって重くなる」

「苦しみに耐えてゆくのに力になる」医の心を女医学会のバッジはつとに早くから表明しています。

これからの社会の中で保健、医療福祉の統合性が非常に重要な課題となつてきます。人々の生活の中に健康があり病気があり、そして助け合いがあつて社会が構成されている以上、この三者は不即不離のものであります。したがつてその連鎖の中で私も医師に求められる責任はより広範囲となつてきておりますが、健康な社会づくりのために女医の役割も一層大きく期待されていることの認識を深めねばならないと思ひます。

見える女医学会に

これは山崎会長が日本女医学会誌新春号の巻頭言文中に書いていられる言葉です。女医学会の運営は会員相互の連帯、向上をはかるのみでなく、地域社会への積極的なかかわりも持たなければならぬとの姿勢が示されていると思ひます。

その一端として、会長は人材バンクの設立を提案、理事会の検討を経て、現在登録を受け付ける手筈を整

えています。人材バンクは大学、研究機関などは当然、地域における会員の活動状況も集積、把握することが可能となり、女医学会の活動をより幅の広いものにする事ができます。最近いろいろな方面から依頼される講演、執筆などに対し、必要性を確認した上で適任者を推薦することは、女医学会の存在価値を高めることにもつながると考えます。

会長はまた、政府あるいは地方行政府での審議会、委員会などに会員を専門委員として積極的にその登用をはかりたいとしておられます。その信念で会長就任以来、長年の国際的、国内トップレベルでの活躍から得られた信望のお顔で、関係行政機

関に女医会員を推薦し、すでに何名の会員が委員として活躍していることは、時代に即応した女医学会として有意義であると思ひ、今後増強をはかっていただきたいと願っています。

小冊子「女医の診察室から」も完成、出版されました。これは健康保険組合員の家庭に配布される健康読本ですが、各科の会員がそれぞれ専門分野について執筆し、しかも女性の細かい視点からの助言が溢れていて大変わかり易く役に立っているという反響が返ってきています。

二月にはそれぞれ選考委員会の審議を経て今年度吉岡弥生賞、荻野吟子賞の受賞者が決定いたしました。

「医学と人間」という本の中で話されている言葉ですが「原点である人間の幸せを目的にしていたのが医療という技術です。それが分子生物学あるいは工学の影響を受けて科学としての構築になってきました。そうすると次第に人間から離れ始め、医療という原点を忘れてしまふ——中略——医者という人間としての重さがかえって重くなる」

「苦しみに耐えてゆくのに力になる」医の心を女医学会のバッジはつとに早くから表明しています。

これからの社会の中で保健、医療福祉の統合性が非常に重要な課題となつてきます。人々の生活の中に健康があり病気があり、そして助け合いがあつて社会が構成されている以上、この三者は不即不離のものであります。したがつてその連鎖の中で私も医師に求められる責任はより広範囲となつてきておりますが、健康な社会づくりのために女医の役割も一層大きく期待されていることの認識を深めねばならないと思ひます。

見える女医学会に

これは山崎会長が日本女医学会誌新春号の巻頭言文中に書いていられる言葉です。女医学会の運営は会員相互の連帯、向上をはかるのみでなく、地域社会への積極的なかかわりも持たなければならぬとの姿勢が示されていると思ひます。

その一端として、会長は人材バンクの設立を提案、理事会の検討を経て、現在登録を受け付ける手筈を整

もくじ

生活はつらつ 生涯しあわせ……………佐藤千代子 (1)

各部報告……………野本 照子 (2)

会計部……………石原 幸子 (3)

事業部……………

支部だより……………

熊本支部だより(熊本支部)……………山本 節子 (3)

反省すること(長崎支部)……………後藤すみ子 (4)

私の大学(獨協医科大学)……………馬場安紀子 (4)

第35回日本女医学会定時総会のご案内(確認)……………

第4回西太平洋地域国際女医学会会議のご案内(2)……………

常任理事会……………

理事会議事録……………

会員動静……………

編集後記……………

国立大学教授候補者としてノミネートされた素晴らしい業績をあげていらっしゃる会員、長年に亘り福祉医療に尽力され、またアジア地域の医療のために外国からの若い人々の育成に力を注いでいらっしゃる会員、そして荻野吟子賞には、国際女医学会において日本女医学会を大きくクローズアップされた会員、このような会員の方々がいらっしやることは私どもにとっても大きな誇りであり、広く全会員に知っていただくことは大変嬉しいこととであります。

なお今年度総会開催に向けて宮城県支部会員の方々が総力を結集して準備にあたって下さいますことに深く感謝致します。

▼選挙方法の改正について

昨年の総会において会員からご発言のありました改正要望につきましましては、重要なご提案であり、十分審議を尽くすべきであるとの判断にて、一年間真摯に検討を続けてまいりました。左記事項は最終的に集約致しました理事会の検討結果であります。会員の皆様はいろいろな角度から十分なご判断をいただきたいと思っております。今年度総会におきましてあらためてご意見を賜わりたく存じますのでよろしくご検討下さい。

▽在宅投票のメリット

一、全会員の意志表示が可能。
 (イ)遠隔地でも投票ができる。
 (ロ)止むを得ず出席不可能な場合でも選挙権を行使できる。
 一、選挙権を行使することにより日

各部報告

▼会計部

本女医会員としての自覚が生じ、会に対する関心が深まる。
 一、出席選挙による混乱を繰り返さないためにも在宅投票が望ましい。
 ・前回選挙の混乱は予測できなかった。理事会の責任である。
 ・前回選挙の混乱の反省は必要であるが、それを繰り返さないため選挙方法を変えるのでなく、あくまでも会員の権利と意志を尊重し、これを原点として考えるべきである。

会計部は佐藤副会長を中心に、常任理事二村・野本、理事石川・青井・中浜の五名が協力して、毎月の収支に目を通す一方、事務局の効率化・省力化をはかってまいりました。その一は、ファクシマリの導入で、会長および理事との事務連絡を迅速化し、二には、各種書類の作成に必要なコピー機を更新し、省力化に役立てるよういたしました。

また日本女医会年金を取り扱う銀行の地域特性を考慮し、従来の安田信託・富士・三菱・三和に加え、東海・青森の二銀行と郵便局が利用できるようになりました。これによつ

野本 照子

▽在宅投票の問題点
 一、知名度の高い候補者ほど当選する確率が高い。
 一、同窓会員の絶対数が多いほど有利となる。
 一、理事の平均年齢が高齢化する。
 一、東京における総会には各地から多数会員が出席し交流を深める意義があり、在宅投票ではこれが薄らぐ(選挙総会には毎回出席者が多く、会の運営にも直接参画できている)会の活性化がはかれる。

一、在宅投票は安易な投票依頼が増大して、果たして会員個人の意志が正確に表明されるか疑問である。
 一、在宅投票にかかわる事務手数は膨大となる。
 一、在宅投票のためのコンピュータ処理のための当初経費は高額が推測される(調査依頼中)。
 一、在宅投票の一部導入
 全国をいくつかのブロックに分け、それぞれのブロックで在宅投票に

よる地方区理事を選出する。
 一、ブロック別の在宅投票による理事選出は施行方法、経費などの面で困難であり、推薦によるブロック別理事の選出が望ましい。
 一、理事候補者の年齢制限(七十五歳まで)
 一、間接選挙
 一、年齢別理事の選出
 一、理事定員削減
 (以上のまとは庶務担当副会長責任としてここに記載いたしました。)

第35回日本女医会定時総会のご案内(確認)

いよいよ、総会まであと二カ月となりました。先生方にはますますお元気で活躍のこととお慶び申し上げます。すでに申し込みいただいておりますが、第35回日本女医会定時総会を仙台市において左記の日程のように開催いたします。なにとぞ、皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加下さいますよう、宮城県女医会会員一同、心よりお待ちいたしております。

I期 日 平成2年5月26日(土) 27日(日)

II会場 仙台国際ホテル

T980 仙台市青葉区中央3丁目4-17

電話 〇二二二六八一一一

III会議

☆5月26日(土)

評議員会 午前10時30分〜12時

総会 午後1時〜3時30分

講演会 午後4時〜5時

演題 「これからのエネルギー」

講師 半導体研究の世界的権威 平成元年度文化勲章受章 東北大学工学部教授(分子電子工学研究部門)

▼事業部

(1)へき地診療への助成
 本年度該当なしで助成はありません。現在へき地はないのではないかと、今後助成の検討を行ないたいと思っております。

(2)公衆衛生

一般の人々を対象とした活動を行なうてまいりましたが、本年度は社会保険新報社の依頼により、風土社と協力し、女医の診察室から「62のヘルシートーク」という小冊子が編集発行されました。読み易くて役に立つとおほめの言葉を頂戴いたしております。仙台での総会出席の方々に差し上げたいと予定しております。なお一冊三百円でお分けしておりますのでご希望の方は、本部までお申し込み下さい。

また例年行なっております講演会も、本年は大阪支部の協力で、十月二十八日(土)、大阪府医師会館において、会員松本文絵先生の「考えて欲しい性と生」と題した講演会を開催致しました。大阪支部の会員のご努力により、今回は一般の男性の参加もあり、大きな成果を収めました。あらためてお礼申し上げます。この講演会の意義は、会そのものほもちろんでありますが、それに加えて講演会を契り多きものとするために、

石原 幸子

企画運営する過程において、支部内の先生方の間にもまた、支部と本部との間にも固い絆が自然に生まれて来るという誠に有意義な機会であることを痛感いたしました。来年度はすでに福岡地区を予定し準備中でございます。各支部におかれましても、ぜひご検討の上お申し込み下さいませようお願いします。

(3)支部助成
 例年通り施行いたしました。

(4)救野吟子賞
 国際女医会にて活躍の小野春生

支部だより

熊本支部だより

熊本支部 山本 節子

こぶし、木蓮、アネモネ、と美を競う花の季節になりました。会員の先生方、お元気で活躍の事と、およろこび申し上げます。本部から支部だよりをとの依頼を受けましたが、正直いって日本女医会としては、何の活動もいたしていない有様です。熊本におられる日本

女医会の先生方も、高齢化がすすみ、会を開く事がむづかしくなりました。私どもでは、熊本県の女医の親睦をはかるために、女医の会と銘つけて、ささやかな会をひらいております。運営は簡易保険団体加入の手数料でまかなっております。しかしそれ

西沢 潤一先生

懇親会 午後5時30分〜7時30分

アトラクション 宮城県女医会コーラス部 午後8時より

IV観光

☆Aコース(日帰りコース・バスと船)

5月27日(日) 仙台国際ホテル8時30分発―多賀城―奥のほそみち探訪―東北歴史資料館―松島の景観を眺めながら昼食―松島瑞巖寺―奥松島嵯峨溪(遊覧船にて周遊)―仙台駅17時解散 定員八〇名 一五、〇〇〇円

☆Bコース(一泊コース・全行程大型バス)

5月27日(日) 仙台国際ホテル8時30分発―盛岡手作り村―つなぎ温泉(昼食)―角館武家屋敷―田沢湖―田沢湖高原温泉(駒ヶ岳観光ホテル泊)

5月28日(月) 駒ヶ岳観光ホテル発―玉川温泉(温泉地獄見物)―後生掛温泉(昼食)―八幡平アスピーテライン展望台―盛岡駅16時解散(希望者はそのままバスにて仙台駅19時着) 定員四〇名 費用四五、〇〇〇円

V宿泊

☆5月25日(金)・5月26日(土) 仙台国際ホテルにシングル一六〇室、テラックススイート二〇室を確保いたしました。

VI会場への交通 JR仙台駅より徒歩で7分。タクシーで3分。

平成二年三月

第35回日本女医会定時総会 宮城県準備委員会代表 長池博子

第35回日本女医会定時総会

宮城県準備委員会代表 長池博子

さへとだえがちです。本日に女医の多忙さを痛感させられます。内科、小児科、婦人科、眼科、耳鼻科等々、いろいろと専門の分野で活躍、勉強をしておられるので、各校代表八名の幹事さんに集まっていただく事でさえ大変です。もちろん私の不手ぎわのせいではあります。

本年一月末日にも、幹事八名の集まりを計画いたしました。二週間の間で、最高六名集まっていただけのがやっと一日だけでした。しかも久しぶりに逢ったので、話は横道にそればかりで、とうとう所期の目的を話し合うひまがなく、またの日を約して、時間切れになってしま

いました。
公私ともにおいそがしい先生方に、わざわざ集まっていたのだのなら、より充実したものにしたいたいと思います。今までは講師の先生にお願いいたしましたら、その講師の先生をさがすのもなかなか意見がまとまりません。
入試の時期がすぎたらと思っ

反省してること

日本女医学会は戦後は昭和三十年より始まったと思います。
その頃は女医としての悩みまたは誇り等話し合ったり、日本各地の会員の動向等お互いに親睦をはかったり等、なかなかのだったようです(少なくとも長崎県では)。
しかし戦後は男女平等になり、この医学部でも入学できるようになりました。

ある年、久し振りに女医学会の会合の案内をしたところ、一會員から、私は日本医師会に入会してののに何故女医学会があるのとの返事でした。ショックでした。彼女にこの言葉をいわせたのは何だろう!! どうも私の責任だと思いました。

世界には国際女医学会があり、日本には日本女医学会、各県には県支部があります。そこで日本女医学会誌を広げてみました。

おります。本部に遠いと何のお手伝いもできません。怠慢な支部ではずかしゅうございます。
最後になりましたが、女医学会の繁栄をお祈り申し上げます。
すこしまとはずれですが、現状をご報告することにより、支部だよりにかえさせていただきます。

後藤すみ子

昭和六十一年一月号の会誌に、公許女医誕生百年式の様子がのっている、会長三神美和先生の挨拶、久保田くらの先生の公許女医第一号である萩野吟子先生の、その苦難の道をきり開き、医学を志す女医に光を灯して下さった記事、このような輝かしい方が百年前におられ、今の私達女医があるのだと思います。

また総会にたまたま出席すれば必ず立派な方による話が聞かれる。たとえば水野肇医事評論家の「開業医の将来」と題して、老人問題及び医療機器の進歩で医療費の増加の話がなされた。今ではまったくその通りになりました。
このようなことを支部で話し合い、地域での女医同志の親睦を高め、女医学会を有意義なものにしてゆきたいと思ひます。女医学会はどうしてあるの、といわせないう努力する覚悟

私の大学

獨協医科大学 馬場安紀子

広大な関東平野のほぼ北端、北に男体山、日光連山を望むところに我が獨協医大はある。大学周囲には栃木名産のかんぴょう畑。収穫の季節には、子供の頃習った白秋の詩そのままだに長い白いかんぴょう干しが農家の庭先で見られる。
獨協医大は一九七三年(昭和四十八年)に創立されたいわゆる新設医大の一つである。百二十年の歴史を有し獨協中学・高等学校・大学等を擁する学校法人獨協学園を母体とした医学部のみならず、附属高等看護学校を持つ。最寄りの鉄道駅は東武宇都宮線おまのまち駅。駅名はおもちゃ工場団地に由来する。大学創立当時は駅前広場から大学までの約1kmを斜めに突っ切って行けた程の障害物もない野原だった。十七年を経た現在は、ハイセンスな店、派手なネオンの飲食店や豪壮なマンション等の立ち並ぶ、県内では最もトレンドイナ街の一つになった。県のCM通りの「とかいなか」である。

の動向等お話に来て下さると大変刺戟になると思ひます。
長崎のおいしい料理を用意して待っています。
開校翌年に附属病院が開院し、一九七九年からは卒業生も次々に入局。現在では栃木県の医療の中心的役割を果たしている。さらに一九八四年には埼玉県越谷市に附属越谷病院が開院。五年を経て着実に実績を伸ばしている。私自身、十七年前第一期生として入学し、微力ながら学生の組織やサークルづくり等に参加、卒業後も母校に残って研修を積んできた。そういう意味で、初期の卒業生にとつて本校はまさに「私の大学」といえよう。
今春には十二期生が卒業し、同窓生は千二百人を越えようとしている。女子はその約一四%を占め、比較的多い。毎年約半数が母校に残るが、結婚その他の事情で男医より早く大学を離れる傾向にあり、現在約四十名が大病院に勤務している。院内での女医の交流としては、新人歓迎会、学位授与祝い、食事会等を適時行ない、互いの悩みを話し励まし合う機会もしている。産婦人科の堀口文助教授の考えによる女医の縦横

常任理事会

日時 平成元年12月16日
場所 京王プラザホテル 四階・宴

出席者(敬称略)
山崎、小俣、佐藤、石原、佐野、白橋、二村、野沢、野本、橋川、橋本、丸山、三好
欠席者(敬称略)
大原、久保田、藤井
庶務報告
11月25日・理事会開催
第12回学術講演研修会を京王プラザホテルにおいて開催(七四名出席)

11月30日・人口問題審議会に山崎会長出席
12月4日・国際婦人年連絡会議

第4回西太平洋地域国際女医学会議のご案内(2)

本年8月末、オーストラリア女医学会が主催する第4回西太平洋地域国際女医学会の旅行スケジュールができましたので、ご案内申し上げます。
今後西太平洋地域は、日本、韓国、台湾、フィリピンの四国と、オーストラリア、ニュージーランド他の二地域に細分される可能性があります。最終決定は、次回ガテマラにおける総会を待つこととなりますが、赤道を越えた西太平洋地域を女医学会として訪ねるのは最後かもしれません。ふるってご参加下さい。

費用概算

Aコース 二九八、〇〇〇円
Bコース 四〇八、〇〇〇円
Cコース 五五八、〇〇〇円
Dコース 五五八、〇〇〇円
1月末現在の航空運賃を基準、ホテルは一室2名。
登録費 会員/4月まで二七五豪ドル
5月1日以降三〇〇豪ドル
同伴者/一〇〇豪ドル

希望者は5月10日頃までに、日本女医学会本部にお申し込み下さい。

オーストラリア女医学会による会議中の細かいスケジュールは未定ですが、プリズベン市滞在中のホテルは会議場ホテルとなります。
登録代行と旅行のお世話は、(株)アイシーエス(日本交通公社傘下で国際会議関連業務専門の会社)が行ないます。
その他の問い合わせ先
帝京大学医学部薬理学教室 藤井 倚子
国際連絡書記 藤井 倚子
電話 〇三一九六四一一二一内線二二四五

出版の依頼あり。

7月にワークショップ、11月に第13回学術講演研修会開催を予定。
藤井国際連絡書記

会計報告

12月分収支別紙と報告書。
中濱理事 承認
久保田常任理事

各部報告

(広報部)
久保田常任理事

理事会議事録

日時 平成2年1月27日
場所 京王プラザホテル 四三階
出席者(敬称略)
山崎、大原、小俣、佐藤、石原、

野沢常任理事
日本女医史の再版に際し年表に追補する事項を各支部長に依頼。

事業部

石原常任理事
年金掛金自動払込取り扱いを新規に全国郵便局と提携する。
本年4月以降の年金新規加入者は八〇余名、一、〇〇〇口を越える。

学術部

橋本常任理事
11月25日、京王プラザホテルにおいて第12回学術講演研修会開催、出席者七四名。
(日本女医史編集小委員会)

庶務報告

福永理事
12月16日・常任理事会開催
12月19日・日本医師会主催懇親会に山崎会長出席
12月20日・国際婦人年連絡会国際婦人開発基金委員

庶務報告

福永理事
12月16日・常任理事会開催
12月19日・日本医師会主催懇親会に山崎会長出席
12月20日・国際婦人年連絡会国際婦人開発基金委員

その他

1月26日・日本女医学会誌二二二号、年金パンフレット、号、年金申し込み書、総会申し込み返信はがき、会費請求書発送

・国際女医学会第4回西太平洋地域会議参加について旅行会社より後日日程を持参する予定。
 ・国際女医学会五〇年会員の表彰状を受領(六一名)。
 (日本女医史編集委員会)

久保田委員長
 ・再版の年表追補事項を全支部に依頼したところ三支部より連絡あり。
報告事項
 学術研究助成応募に対し三名の申請あり、後日委員会で検討する。
 新井寧子(埼玉支部)
 成瀬清子(東女医学内支部)
 本康あき子(静岡支部)

議事
 一、役員選挙方法について
 役員会での検討結果を会誌に掲載する。
 二、国際女医学会第4回西太平洋地域会議開催について

日時 一九九〇年8月29〜31日
 場所 オーストラリア・ブリスベン
 テーマ 21世紀へ向けての女性の健康に関する論点
 三、その他
 (1)婦人団体とのかかわりについて
 今後の婦人団体とのかかわり方について山崎会長と渉外部で検討する。
 (2)日本女医学会監修「女医の診察室から」発刊について
 出版社より監修料として二〇万円受領。
 その監修料にて五〇〇冊を購入

し、本部に保管した上、希望者には三〇〇円で販売。
 (3)役員会開催日について別紙のとおり。
 (4)事務職員木下佐知子退職願について
 木下職員と庶務部で話し合う。
 (5)吉岡弥生賞受賞者決定
 医学に貢献した会員
 早川律子(愛知支部)
 社会に貢献した会員
 丸木希代(埼玉支部)
 (6)荻野吟子賞受賞者決定
 小野春生(目黒支部)

常任理事会

日時 平成2年2月24日
 場所 日本女医学会 会議室
 出席者(敬称略)
 山崎、大原、小俣、佐藤、石原、久保田、白橋、二村、野沢、野本、橋川、橋本、藤井、丸山、三好
 欠席者(敬称略)
 佐野

副会長(庶務担当) 佐藤
 庶務部 白橋、三好、荒木、南雲、福永、八木
 以上
 一、吉岡弥生賞受賞決定の早川律子
 その他

二、故板倉玉子先生ご遺族より香典の礼状あり
 二村常任理事
会計報告
 1月分収支別紙どおり報告
各部報告
 (広報部) 久保田常任理事
 ・2月21日、日本女医学会誌一二二号の編集企画会議開催。
 (事業部) 橋川常任理事
 ・公開講演会開催について
 日時 平成2年4月7日(土)
 午後2時〜4時30分
 場所 福岡市役所 15階 講堂
 演題および演者
 高齢者の地域ケア 山崎倫子
 「性」から「生」へ 松本文絵
 「女医の診察室から62ヘルシートーク」寄贈の礼状あり
 (学術部) 橋本常任理事
 ワークショップについて
 日時 平成2年7月28日(土)
 テーマ 腫瘍の診断・治療の新しい動向
 演者候補 布山繁美、上坊敏子、堀野信子、斎藤明子
 ・第13回学術講演研修会について
 日時 平成2年11月17日(土)
 (国際女医学会) 藤井国際連絡書記
 ・国際女医学会第4回西太平洋地域会議について
 ①参加日程の作成は、JTBへ依頼。
 ②演題提出予定者、山崎倫子先生。

第4回ワークショップ開催のお知らせ

とき 平成二年七月二十八日(土)
 午後二時三十分〜五時
 ところ 東京女子医科大学臨床講堂(1)
 テーマ 腫瘍の診断・治療の新しい動向
 詳細は後日お知らせ致します。
学術部

会員動静

入会会員(敬称略)
 宮城支部 加藤玲子 今野貞子
 森 絃子
 福島支部 松村俊子
 栃木支部 池田三知代
 板橋支部 飯田富子
 東女医学内支部 吉野博子
 都下東支部 春木純淑
 神奈川支部 大岡みゆき
 静岡支部 夏莉都子
 愛知支部 伊藤恭子
 石川支部 小屋和子 橋井美奈子
 大阪2支部 田仲みずす
 大阪6支部 高木由紀
 新卒入会会員(敬称略)
 兵庫支部 川嶋基佐子

国際女医学会会費は、例年どおり一、八〇八名分送金。
 (日本女医史編集委員会)
 久保田編集委員長
 ・日本女医史の再版に際し年表に追補する事項を今後委員会で検討。
 物故者(敬称略)
 豊島支部 馬越敏子
 愛知支部 板倉玉子

本号は割りつけ後学術からの急告の原稿が入り、六頁のなかの編集後記をのぞいて「ピットリ」おさまるか否かを案じたがようやく安心。後記に関して、お報らせの向を次号に。
 (編集委員会)

平成2年4月20日 印刷
 平成2年4月25日 発行
 編集人 久保田くら
 発行人 日本女医学会
 発行所 東京都渋谷区渋谷2-1-8
 8-17 青山宮野ビル
 社団法人 日本女医学会
 TEL(498)〇五七一
 制作 東京都文京区水道1-5-16(815)六六六一
 株式会社 金剛出版